

## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	北海道大学	連携大学事業推進委員	井上 哲	事務担当者	藤野 智彦
-------	-------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	横山 敦郎 山崎 裕 岡田 和隆 浅香 卓哉 吉川 和人 高橋 大郎 吉原 俊博 井上 哲	歯学部長 運営委員会委員長 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員 運営委員会委員	事業責任者 研修実施責任者 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 研修実施担当 卒後臨床研修センター歯科部門長	☑・否
教育プログラム・コース名	北海道大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム がん治療の周術期における口腔管理研修コース			
事業計画	<p>研修概要</p> <p>さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟し、歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる歯科医師を育てるために行うもので、がん治療の周術期セミナー、がん化学療法前の口腔管理演習、およびがん治療周術期の口腔管理研修からなる。</p> <p>対象</p> <p>単独型歯科研修医 8名</p> <p>研修目標</p> <p>(1) さまざまながん患者における周術期の歯科的管理に習熟する (2) 歯科診療所において地域病院との円滑な連携を研修直後から実践できる</p> <p>研修項目</p> <p>(1) がん治療の周術期管理に関するセミナー (90分×7回)</p> <p>① 平成29年6月7日(水) がん治療と口腔内合併症 ② 平成29年6月14日(水) がん放射線療法全般 ③ 平成29年6月21日(水) がん患者の歯科治療と医療連携 ④ 平成29年7月5日(水) 小児科領域のがん治療 ⑤ 平成29年7月12日(水) がん化学療法全般 ⑥ 平成29年7月19日(水) 耳鼻咽喉科領域のがん治療 ⑦ 平成29年7月26日(水) 血液内科領域のがん治療</p> <p>(2) がん化学療法前の口腔管理演習 (150分) 平成30年1月16日</p> <p>① 新患担当症例のプレゼンテーションと質疑応答 (1人15分)</p> <p>(3) がん治療周術期の口腔管理研修</p> <p>① がん化学療法前の口腔管理を目的とした新患の歯科治療 (2~3週間) ② 耳鼻咽喉科, 血液内科, 小児科各病棟への周術期口腔管理の往診 (各科病棟2週ずつ計6週)</p> <p>研修評価</p> <p>(1) セミナー受講後にレポート提出 (2) 新患担当症例のプレゼンテーション (3) 研修終了後に運営委員会メンバーによる口頭試問(平成30年2月27日予定)</p>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の研修医に、当研修プログラムの希望を募ったところ、9人の応募があり、抽選で8人を決定した。</li> <li>・研修に先立ち、本年度からがん周術期管理に関する確認テストを施行した。研修後の2月下旬にも同じ問題を行い、知識の向上がなされたか確認予定である。</li> <li>・研修項目(1)のがん治療の周術期管理に関わるセミナーを予定通り7回終了したが、本年は①②③の3回のセミナーはライブで、その他のセミナーはe-learning教材での聴講とした。e-learningでは、セミナー前に問題を与えセミナー終了後、レポートとして提出させた。</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修項目(3)のがん治療周術期の口腔管理研修では、①がん周術期の新患の患者さんを昨年よりさらに多く最低4人以上を担当し、指導医の指導の下で治療を行った。②耳鼻咽喉科、血液内科、小児科への往診を8人の研修医全員が終えた。</li> <li>・研修項目(2)のがん化学療法前の口腔管理演習では、1/16に担当した新患の患者さん1人を選択し、診断・治療の概要をパワーポイントにしてプレゼンテーション(10分)、質疑応答(5分)を行った。</li> <li>・研修プログラムを全て終了後の平成30年2月27日に、研修実施教官出席の下、口頭試問を行い、症例のプレゼンテーションと併せて評価を行う予定である。</li> <li>・口頭試問後に、研修医に対し研修のアンケート調査を行い、次年度の事業計画の参考にする予定である。</li> <li>・平成29年10月16日昭和大学口腔ケアセンター長の弘中祥司教授を招聘し、「地域で育てる小児嚥下障害患者の支援」と題する講演を企画し、研修医全員に聴講させた(資料30)。</li> <li>・平成30年3月2日 岩手医科大学歯学部歯科保存学講座の野田 守教授を招聘し、「周術期口腔機能管理 循環器編」と題する講演を企画し、研修医全員に聴講させる予定。</li> <li>・平成29年11月10日～11日、本学で「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー平成29年度 連携シンポジウム」を開催し、歯学教育を取り巻く状況や他大学並びに本学の取り組みを紹介し、連携大学関係者、本学教員、学生と情報を共有した。また、シンポジウムの各講演はビデオに収録し、連携大学に配信した。</li> <li>・在宅診療教育用高齢者シュミレーターを購入し、高齢者歯科学の臨床実習において、5年生全員に対し要介護高齢者を想定した車椅子の移乗実習を実施した(資料31)。</li> </ul>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>Asaka T, Ohga N, Yamazaki Y, Sato J, Satoh C, Kitagawa Y</u>: Platelet-rich fibrin may reduce the risk of delayed recovery in tooth-extracted patients undergoing oral bisphosphonate therapy: a trial study. Clin Oral Investig 21: 2165-2172, 2017.</li> <li>2. Obinata K, Shirai S, Ito H, Nakamura M, Carrozzo M, Macleod I, Carr A, <u>Yamazaki Y</u>, Tei K: Image findings of bisphosphonate related osteonecrosis of jaws comparing with osteoradionecrosis. 2017: Dentomaxillofac Radiol. 2017 Jul 16:20160281. doi: 10.1259/dmfr.20160281.</li> <li>3. 櫻井 薫, 平野浩彦, 菊谷 武, 片倉 朗, <u>山崎 裕</u>, 飯島勝矢, 吉田光由, 戸原 玄, 渡邊 裕: 後期高齢者の口腔機能を改善する診療ガイドラインに関する研究ーオーラルフレイル概念を基軸にした検討ー. 日歯医学会誌 36:38-42, 2017年.</li> </ol> <p>発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 山崎 裕: シンポジウム: 周術期口腔機能管理における保存診療～臨床的・基礎的観点から～「超高齢社会に対応できる歯学生教育」第 147 回日本歯科保存学会秋季学術大会, 2017年10月27日, 盛岡市・マリオス(資料32)</li> <li>2. 山崎 裕: 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム, 平成29年度連携シンポジウム in 札幌「北大研修プログラム紹介-ガン治療の周術期における口腔管理研修」, 2017年11月11日, 北大.</li> </ol> <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICY39A イエロー 純正品</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第34回日本障害者歯科学会総会および学術大会参加(福岡) : 1名</li> <li>・ 第62回日本口腔外科学会総会・学術大会参加(京都) : 2名</li> <li>・ 第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会参加(千葉) : 1名</li> <li>・ 日本小児歯科学会専門医セミナー参加(博多) : 1名</li> <li>・ 第36回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会参加(新潟) : 3名</li> <li>・ 第27回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会参加(東京) : 2名</li> </ul> <p>その他</p>

	・切手、官製はがき
--	-----------

- ※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。
- ※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。
- ※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。



## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	金沢大学	連携大学事業推進委員	中村博幸	事務担当者	刈崎
-------	------	------------	------	-------	----

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	川尻秀一 中村博幸 大井一浩	教授 准教授 講師	事業推進委員 事業推進委員、教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター	(可) 否
教育プログラム・コース名	金沢大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム (1) がん治療支援口腔機能管理社会人研修コース (2) がん治療支援口腔機能管理卒後臨床研修コース (3) がん治療支援口腔機能管理コース			
事業計画	平成29年度 (1) 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会を開催 (2) 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 (3) 北海道大学歯学部で歯学教育研究連携シンポジウムの開催 (4) 在宅訪問口腔ケア研修 (5) フィールド調査（石川県能登における認知症と口腔機能に関する地域健診調査）への参加 (6) 医学部学生への歯科医学教育実習			
成果	(1) 歯学教育改革コンソーシアムの事業推進委員会に参加 (2) 各連携大学の特徴あるプログラムの登録、試行 金沢大学がんプロフェッショナル医養成プラン（がんプロ）のコンテンツを本事業へと移行するための作業を継続している。具体的な作業内容は、コンテンツの著作権処理と作製者からの使用許諾の取得である。本年度は新規にがんプロに追加または更新されたコンテンツの移行作業を開始した。来年度作業の終了したコンテンツを提出する予定である。 (3) 北海道大学歯学部で歯学教育研究連携シンポジウムに参加 (4) 在宅訪問口腔ケア研修 金沢森本⇄砺波（11/13、12/4、12/18）【各日1名ずつ計3人の研修医に対して実地研修を行った】 (5) フィールド調査（石川県能登における認知症と口腔機能に関する地域健診調査、11/3、4、5）に各日2名ずつ計6人が参加した。 (6) 医学部5年生に歯科医学教育と実習を行った。			

<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>(1) Hira-Miyazawa M, <u>Nakamura H.</u>, Hirai M., Kobayashi Y., Kitahara H., Bou-Gharios G. and <u>Kawashiri S.</u> Regulation of programmed-death ligand in the human head and neck squamous cell carcinoma microenvironment is mediated through matrix metalloproteinase-mediated proteolytic cleavage. Int J Oncol, 52: 379-388, 2018.</p> <p>(2) Hirai M., Kitahara H., Kobayashi Y., Kato K., Bou-Gharios G., <u>Nakamura H</u> and <u>Kawashiri S.</u> Regulation of PD-L1 expression in a high-grade invasive human oral squamous cell carcinoma microenvironment. Int J Oncol, 50: 41-48, 2017.</p> <p>(3) Murasawa Y., <u>Nakamura H.</u>, Watanabe K., Kanoh H., Koyama E., Fujii S., Kimata K., Zako M., Yoneda M. and Isogai Z. The Versican G1 Fragment and Serum-Derived Hyaluronan-Associated Proteins Interact and Form a Complex in Granulation Tissue of Pressure Ulcers. The American Journal of Pathology, 188: 432-449, 2018.</p> <p>(4) Hirai M., Kitahara H., Kobayashi Y., <u>Kawashiri S</u> and <u>Nakamura H.</u> The role of PD-L1 in a high-grade invasive human oral squamous cell carcinoma microenvironment. Annals of Oncology, 28:1721P, 2017.</p> <p>(5) Kitahara H., Hirai M., <u>Kawashiri S</u> and <u>Nakamura H.</u> Oral squamous cell carcinoma cells were sensitized to cetuximab by Eribulin via induction of the mesenchymal-to-epithelial transition. Annuals of Oncology, 28:56P, 2017.</p> <p>(6) Kobayashi K, Jokaji R, Miyazawa-Hira M, Takatsuka S, Tanaka A, Ooi K, <u>Nakamura H</u> and <u>Kawashiri S.</u> Elastin-derived peptides are involved in the processes of human temporomandibular disorder by inducing inflammatory responses in synovial cells. Molecular Medicine Reports 16:3147-3154, 2017.</p> <p>(7) Ooi K., Inoue N, Matsushita K, Yamaguchi H, Mikoya T, Minowa K, Kawashiri K, Nishikata S, Tei K. Incidence of anterior disc displacement without reduction of the temporomandibular joint in patients with dentofacial deformity. Int J Oral Maxillofac surg, in press 2017.</p> <p>(8) Ooi K, Jokaji R, Matsushita K, Yamaguchi H, Mikoya T, Nishikata S, <u>Kawashiri S</u>, Tei K. Early changes in body weight after orthognathic surgery: comparisons between three different osteosynthesis methods and factors related to body weight loss. Dent. Hosp. in press 2017.</p> <p>(9) Watanabe S, Nakajima K, Mizokami A, Yaegashi H, Noguchi N, <u>Kawashiri S</u>, Inokuchi M, Kinuya S. The role of 18F-FDG PET/CT in early detection and risk assessment of medication-related osteonecrosis of the jaw. J Nucl Med, 58: 305, 2017.</p> <p>知財、受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>設備備品 JMS舌圧測定器、細菌カウンタ</p> <p>消耗品 口腔水分計、JMS舌圧プローブ、口唇閉鎖力測定器、口腔水分計ムーカス専用センサーカバー、細菌カウンタ用ディスプレイセンサー等</p> <p>旅費 北海道大学歯学部での歯学教育研究連携シンポジウム 参加(川尻、中村、大井参加)</p> <p>その他 教材移行作業、企画設計(定期的な打合せ含む)、対象科目の著作権確認・著作権処理・各講師への承諾</p> <p>学会参加費 ヨーロッパ癌治療学会(9/8-12)参加(中村)</p>

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻(号)・最初と最後の頁・発表年(西暦)の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。

## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	大阪大学	連携大学事業推進委員	天野 敦雄	事務担当者	松原 弘文
-------	------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	天野 敦雄 長島 正 池邊 一典 権藤 恭之 神出 計 北村 正博 松田 謙一 小川 泰治	歯学部長 教授 准教授 准教授 教授 准教授 助教 助教	事業責任者 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習担当 (老年心理学) 実習担当 (老年内科学) 実習担当 (歯周病学) 実習担当 (歯科補綴学) 実習担当 (高齢者歯科学)	☑・否
教育プログラム・コース名	大阪大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム 異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習 多職種連携に資するリサーチマインドを持った指導的歯科医療人養成コース 高齢者の総合診療に資する歯科医療人の育成実習			
事業計画	<p>大阪大学では、老年学研究会が中心となり、都市部と農村部において、70歳、80歳、90歳の対象者を計1200名登録し、健康長寿についてのコホート研究を行っている。歯学のみならず、医学系（老年内科学、看護学）、人間科学（社会学、心理学、運動学）の各研究科、地域の行政（保健師など）が参加している。</p> <p>大学院生や臨床研修医は、この共同研究に参加し、それぞれの分野の観点を学び、口腔機能のみならず、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を実習する。</p> <p>また、学部生教育として、臨床実習生を対象に高齢者マネキンを用いた要介護高齢者歯科治療模擬体験実習を実施する。</p> <p>高齢者を対象とした総合診療と研究に必要な医療人や研究者との交流を図り、異分野連携に貢献する資質を涵養することを期待できる新規性及び独創性の高いプログラムである。</p>			
成果	<p>異分野連携に資する歯科医学研究者養成実習では、3名の大学院生が、1回6時間の実習を、延べ23回履修した。</p> <p>また、指導的歯科医療人養成コースでは、13名の臨床研修医が、1回6時間の実習を、延べ14回履修した。</p> <p>大学院生、研修医とも、高齢者の健康に重要な、栄養摂取、内科的疾患、認知機能、運動機能の評価方法を理解し、修得するとともに、収集したデータの入力、整理を行った。大学院生は、それに加えて統計解析も行った。</p> <p>10名の臨床研修医は、長野県の農村部において、各5日間、訪問歯科診療に同行し、診療を見学するとともに、上記のうち可能なものについてデータの収集を行った。</p> <p>要介護高齢者歯科治療模擬体験実習は10名の臨床実習生が希望受講し、要介護者高齢者マネキンを用いて歯科治療（口腔内検査、印象採得）を模擬的に実践し、診療時の要点などの解説およびフィードバックを行った。今後はさらに実習内容の充実を図ると同時に、受講対象者の拡大に努めたいと考えている。</p>			

本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等

論文

1. Ogawa T, Uota M, Ikebe K, Arai Y, Kamide K, Gondo Y, Masui Y, Ishizaki T, Inomata C, Takeshita H, Mihara Y, Hatta K, Maeda Y (2017) Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. *J Oral Rehabil* **44**: 22-29.
2. Ogawa T, Annear MJ, Ikebe K, Maeda Y (2017) Taste-related sensations in old age. *J Oral Rehabil* **44**: 626-635.
3. 小川泰治, 広瀬雄二郎, 本多真理子 (2017) 口腔細菌叢から健康を考える-口腔は腸管に次ぐ細菌叢の宝庫-. *Medical Science Digest*. ニューサイエンス社. **43**: 5-7.
4. Okubo H, Inagaki H, Gondo Y, Kamide K, Ikebe K, Masui Y, Arai Y, Ishizaki T, Sasaki S, Nakagawa T, Kabayama M, Sugimoto K, Rakugi H, Maeda Y; SONIC Study Group (2017) Association between dietary patterns and cognitive function among 70-year-old Japanese elderly: a cross-sectional analysis of the SONIC study. *Nutr J* **16**: 56.
5. Tada S, Ikebe K, Kamide K, Gondo Y, Inomata C, Takeshita H, Matsuda KI, Kitamura M, Murakami S, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Kawai T, Yamamoto K, Sugimoto K, Shintani A, Ishihara T, Arai Y, Masui Y, Takahashi R, Rakugi H, Maeda Y (2017) Relationship between atherosclerosis and occlusal support of natural teeth with mediating effect of atheroprotective nutrients: From the SONIC study. *PLoS One* **12**: e0182563.
6. Ryuno H, Kamide K, Gondo Y, Kabayama M, Oguro R, Nakama C, Yokoyama S, Nagasawa M, Maeda-Hirao S, Imaizumi Y, Takeya M, Yamamoto H, Takeda M, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Sugimoto K, Nakagawa T, Yasumoto S, Ikebe K, Inagaki H, Masui Y, Takayama M, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R, Rakugi H (2017) Longitudinal association of hypertension and diabetes mellitus with cognitive functioning in a general 70-year-old population: the SONIC study. *Hypertens Res* **40**: 665-670.
7. Ogawa T, Hirose Y, Ogawa HM, Sugimoto M, Sasaki S, Kawabata S, Ikebe K, Maeda Y (2018) Composition of salivary microbiota in elderly subjects. *Sci Rep* **8**: 414.
8. Ikebe K, Gondo Y, Kamide K, Masui Y, Ishizaki T, Arai Y, Inagaki H, Nakagawa T, Kabayama M, Ryuno H, Okubo H, Takeshita H, Inomata C, Kurushima Y, Mihara Y, Hatta K, Fukutake M, Enoki K, Ogawa T, Matsuda KI, Sugimoto K, Oguro R, Takami Y, Itoh N, Takeya Y, Yamamoto K, Rakugi H, Murakami S, Kitamura M, Maeda Y (2018) Occlusal force is correlated with cognitive function directly as well as indirectly via food intake in community-dwelling older Japanese: From the SONIC study. *PLoS One* **13**: e0190741.

研究発表

1. 小川泰治, 吉備政仁, 池邊一典, 前田芳信. 自立高齢者と要介護高齢者における口腔細菌叢の比較. 第28回日本老年歯科医学会学術大会 2017年6月14日, 名古屋.
2. 三原佑介, 八田昂大, 福武元良, 池邊一典, 前田芳信. 高齢者における最大咬合力と運動習慣について. 第28回日本スポーツ歯科医学会. 2017年6月18日, 札幌.
3. 福武元良, 池邊一典, 松田謙一, 小川泰治, 榎木香織, 猪俣千里, 武下肇, 三原佑介, 八田昂大, 前田芳信. 高齢者の最大咬合力と日常の食生活における咀嚼筋活動推定量との関連. 第127回日本補綴歯科学会. 2017年7月1日, 横浜.
4. 福武元良, 池邊一典. 地域高齢者における口腔機能と栄養摂取との関連. 深井保健科学研究所第16回コロキウム. 2017年9月10日, 東京.
5. 八田昂大, 福武元良, 三原佑介, 猪俣千里, 榎木香織, 前田芳信, 池邊一典. 臼歯部咬合支持が歩行速度低下に及ぼす影響についての検討-SONIC Study 3年間の縦断研究より-. 第4回日本サルコペニア・フレイル学会. 2017年10月15日, 京都.
6. 佐藤仁美, 松田謙一, 小川泰治, 榎木香織, 猪俣千里, 武下肇, 三原佑介, 八田昂大, 福武元良, 前田芳信, 池邊一典. 無歯顎者群はすれ違い咬合者群よりも口腔関連 QOL は低いのか? 平成29年度日本補綴学会関西支部学術大会. 2018年1月21日, 京都.

知財

該当事項なし



	<p>受賞等 小川泰治. 第30回日本老年学会総会. 合同ポスター賞. 2017年6月14日.</p>						
<p>事業費の使途</p>	<table> <tr> <td data-bbox="271 416 702 528"> <p>消耗品 書籍など</p> </td> <td data-bbox="702 416 1477 528"> <p>¥166,436</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 528 702 640"> <p>旅費 国内旅費</p> </td> <td data-bbox="702 528 1477 640"> <p>¥833,564</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="271 640 702 775"> <p>その他 なし</p> </td> <td data-bbox="702 640 1477 775"> <p>¥0</p> </td> </tr> </table>	<p>消耗品 書籍など</p>	<p>¥166,436</p>	<p>旅費 国内旅費</p>	<p>¥833,564</p>	<p>その他 なし</p>	<p>¥0</p>
<p>消耗品 書籍など</p>	<p>¥166,436</p>						
<p>旅費 国内旅費</p>	<p>¥833,564</p>						
<p>その他 なし</p>	<p>¥0</p>						

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。



## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	岡山大学	連携大学事業推進委員	窪木拓男	事務担当者	成本浩二
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	窪木拓男 浅海淳一 久保田 聡 飯田征二 鳥井康弘 曾我賢彦	歯学部長 委員長 部会長 部門長 部長	事業責任者 本学部責任者 教務委員会 臨床実習実施部会 卒後臨床研修センター歯科部門 医療支援歯科治療部	☑・否
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム「口腔・全身健康実践」コース—周術期口腔管理・摂食嚥下機能回復・在宅歯科医療—</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 1. 要介護高齢者を模したシミュレーターや老人介護・在宅介護施設を用いたPBL演習</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 2. 岡山大学病院周術期管理センターを利用した高度医療支援周術期口腔機能管理実習</li> <li>・医療支援歯学教育コースワーク 3. 臨床講師等を利用した在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習</li> </ul>			
事業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェブ授業シリーズのコンテンツの作成を継続し、蓄積する。</li> <li>② 連携校間や協力施設への教員FD, 学生交流を実施する。</li> <li>③ がん化学療法・周術期等の医療を支える口腔管理シンポジウムを開催する。</li> <li>④ 特徴あるCWシラバスの修正, 実施を行う。</li> <li>⑤ 初期研修医のCWを試行する。</li> <li>⑥ 事業推進委員会を開催し, 各連携大学での事業進捗状況を確認する。</li> <li>⑦ 自己評価報告書の作成および外部評価委員会を開催する。</li> </ol>			
成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ウェブ授業シリーズのコンテンツをより実践的な内容のものにブラッシュアップし, 来年度からの視聴の準備が整った。また, 単位化しているウェブ授業の成績管理を円滑にするためのシステムの機能拡張を行った。連携大学での収録コンテンツの収集およびサーバーへの格納が完了しており, コンテンツのよりいっそうの充実を図ることができた。</li> <li>② 協力施設の東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センターより会田薫子特任教授を, 国立長寿医療研究センターより大野友久先生を招聘し, 「終末期の意思決定支援と歯科のアプローチ」と題した特別講演会を開催した。本講演会は本学部教員のためのFD講演会として開催し, 教育資質向上のための良い機会のひとつとすることができた。また, 岡山大学の学生が「長崎大学主催 離島歯科保健医療 サマースクール」および「鹿児島大学主催 夏季全国歯学生離島実習プログラム」に参加し, 地域医療を学ぶ教育プログラムを経験した。また, 岡山大学の教員が「夏季全国歯学生離島実習プログラム」の開催地である与論島を視察し, 現地の歯科医師および鹿児島大学の歯学部教員と交流し, 離島歯科医療の実情を学習する教育プログラムの構築についての意見交換を行った。</li> <li>③ 兵庫医科大学でのシンポジウム「食べられる口をCREATE」に参加し, 周術期医療を支える多くの職種からの講演を拝聴したことで, 来年度以降に同様の口腔管理シンポジウム開催をするための多くの知識を得ることができた。</li> <li>④ 岡山大学病院初期歯科臨床研修プログラムの一環として, 本事業の「口腔・全身健康実践」コースを実施した。また, 学部学生対象の教育プログラムとして, 「シミュレーション実習」, 「介護施設を用いたPBL演習」, 「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」および「在宅介護歯科医療実習」を実施し, 単位認定を行った。</li> <li>⑤ 初期研修医全員に対して, 講義シリーズ2(急性期医療)および講義シリーズ3(在宅介護医療)の計30コンテンツを視聴させ, シミュレーターを用いた在宅歯科医療シミュレーション実習を行った</li> </ol>			

	<p>⑥ 北海道大学での連携シンポジウムの際に、第5回事業推進委員会を開催し、平成28年度の自己評価および外部評価の結果や各連携大学での事業進捗状況等の報告がなされた。また、本委員会にて医療支援歯学教育コースワークの均てん化についての進捗状況の報告と今後の展開について議論を行った。</p> <p>⑦ 自己評価を行った。自己評価報告書を外部評価の資料とし、本年度は外部評価委員の先生方へ送付する形式にて外部評価をお願いした。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p><b>書籍</b></p> <p>1) Andrew N. Davies, Joel B. Epstein 編, <u>曾我賢彦</u>監訳, がん口腔支持療法 多職種連携によるがん患者の口腔内管理. 永末書店, 2017.</p> <p><b>論文</b></p> <p>1) <u>川瀬明子</u>, 宮脇卓也, 小河達之, <u>窪木拓男</u>, 久保田聡, <u>浅海淳一</u>: 歯学教育における診療参加型臨床実習のための電子版連携ログブック (電子ログブック) の開発と今後の課題について. 岡山歯学会雑誌, 36(2):53-59, 2017.</p> <p>2) Matsuka Y, Hagiwara Y, Tamaki K, Takeuchi H, Fujisawa M, Ono T, Tsukiyama Y, Nagao K, Tsuga K, Aita H, Kondo H, Fueki K, Tsukasaki H, Nishigawa K, Ozawa S, Kuwatsuru R, Minakuchi H, Iinuma T, Matsuura T, Ishibashi K, Fujii S, Hirai T, Sasaki K, Yatani H, Igarashi Y, Sato Y, Ichikawa T, Yamamori T, <u>Kuboki T</u>, Baba K, Koyano K, Sato H, Matsumura H. :Reliability and validity of the patient disability-oriented diagnostic nomenclature system for prosthetic dentistry. Journal of Prosthodontic Research;61(1):20-33, 2017.</p> <p>3) Tohara T, Kikutani T, Tamura F, Yoshida M, <u>Kuboki T</u>. : Multicentered epidemiological study of factors associated with total bacterial count in the saliva of older people requiring nursing care. Geriatrics &amp; Gerontology International;17(2):219-225, 2017.</p> <p>4) <u>Kuboki T</u>, Ichikawa T, Baba K, Fujisawa M, Sato H, Aita H, Koyama S, Hideshima M, Sato Y, Wake H, Kimura-Ono A, Nagao K, Kodaira-Ueda Y, Tamaki K, Sadamori S, Tsuga K, Nishi Y, Sawase T, Koshino H, Masumi SI, Sakurai K, Ishibashi K, Ohyama T, Akagawa Y, Hirai T, Sasaki K, Koyano K, Yatani H, Matsumura H. : A multi-centered epidemiological study evaluating the validity of the treatment difficulty indices developed by the Japan Prosthodontic Society. Journal of Prosthodontic Research, 2017 Sep 12. pii: S1883-1958(17)30080-4.</p> <p><b>総説論文</b></p> <p>1) 山中玲子, <u>曾我賢彦</u>: 食道がん治療および発症予防における歯科的支援の意義. 別冊Bio Clinica, 6(3):140-146, 2017.</p> <p>2) <u>村田尚道</u>: 【写真で見る診るフィジカルアセスメント力UP↑ 身体症状からわかる栄養状態の押さえどころ43】 口腔. Nutrition Care, 10(5):435-442.</p> <p><b>学会発表</b></p> <p>1) 縄稚久美子, 水口真実, <u>前田あずさ</u>, 三野卓哉, 三木春奈, 黒崎陽子, 小山絵理, 中川晋輔, 沼本 賢, 國友由理, 野村 優, 前川賢治, <u>窪木拓男</u>: 岡山県における栄養管理多職種連携を推進する人材養成セミナーの取り組み. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 28 回学術大会. 名古屋. 2017. 6. 14-16.</p> <p>2) 沼本 賢, 大野 彩, 逢坂 卓, 三野卓哉, 徳本佳奈, 小山絵理, 天野友貴, 黒崎陽子, 中川晋輔, 小林芳友, 山本道代, 前川賢治, <u>窪木拓男</u>: 要支援・要介護者の口腔内環境や全身状態と, 根面う蝕の関係に関する多施設横断疫学調査. 一般社団法人日本老年歯科医学会第 28 回学術大会. 名古屋. 2017. 6. 14-16.</p> <p>3) 逢坂 卓, 大野 彩, 中川晋輔, 三野卓哉, 黒崎陽子, 小山絵理, 沼本 賢, 天野友貴, 徳本佳奈, 前川賢治, <u>窪木拓男</u>: 欠損補綴治療における治療1年後の口腔関連 QOL とレスポンスシフトー予備的検討ー. 公益社団法人日本補綴歯科学会第 126 回学術大会. 横浜. 2017. 6. 30-7. 2.</p> <p>4) <u>園井教裕</u>, <u>曾我賢彦</u>, 山中玲子, 室 美里, <u>前田あずさ</u>, 川瀬明子, 杉本恭子, <u>窪木拓男</u>, <u>浅海淳一</u>: 急性期医療の現場でチーム医療を体験させる多職種連携教育の教育効果. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会. 松本市. 2017. 7. 28-29.</p> <p>5) <u>武田宏明</u>, <u>杉本恭子</u>, 渡邊 翔, 塩津範子, 鈴木康司, 河野隆幸, 吉田登志子, 白井 肇, <u>浅海淳一</u>, <u>窪木拓男</u>, 鳥井康弘: 岡山大学病院歯科医師臨床研修における在宅歯科医療研修</p>

- の導入について. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会. 松本市. 2017. 7. 28-29.
- 6) 前田あずさ, 曾我賢彦, 山中玲子, 窪木拓男, 浅海淳一: 岡山大学病院のチーム医療現場を利用した緩和ケア教育の取り組み. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会. 松本市. 2017. 7. 28-29.
  - 7) 縄稚久美子, 水口真実, 前田あずさ, 三野卓哉, 三木春奈, 黒崎陽子, 小山絵理, 中川晋輔, 沼本 賢, 國友由理, 野村 優, 前川賢治, 窪木拓男: 岡山県の口腔栄養関連サービスを推進する人材を養成する生涯教育ワークショップの取り組み. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会. 松本市. 2017. 7. 28-29.
  - 8) Sonoi N, Soga Y, Iida S, Kuboki T, Asaumi J: The necessity of a systematic curriculum on end-of-life care. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会及び学術大会 (国際学会研究発表奨励賞受賞者ポスター発表). 松本市. 2017. 7. 28-29.
  - 9) 川瀬明子, 宮脇卓也, 久保田聡, 松尾龍二, 大原直也, 松本卓也, 鳥井康弘, 飯田征二, 窪木拓男, 浅海淳一: 歯学教育認証評価検討 WG による歯学教育認証評価トライアルを主審して. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術集会. 松本市. 2017. 7. 28-29.
  - 1 0) 杉本恭子, 宮脇卓也, 武田宏明, 飯田征二, 窪木拓男, 浅海淳一: 在宅・訪問歯科診療実習での処置内容とアンケート結果を反映したシミュレーション教育の取組について. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術集会. 松本市. 2017. 7. 28-29.
  - 1 1) 縄稚久美子, 水口真実, 高橋賢晃, 前田あずさ, 三野卓哉, 三木春奈, 黒崎陽子, 小山絵理, 中川晋輔, 沼本 賢, 國友由理, 野村 優, 前川賢治, 菊谷 武, 窪木拓男: 要介護高齢者のためのミールラウンドを模した多職種連携ワークショップの試み. 平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会. 山口. 2017. 8. 26-27.
  - 1 2) 黒崎陽子, 三野卓哉, 和泉幸治, 大野 彩, 前川賢治, 窪木拓男: 口腔インプラント支持暫間上部構造の形態を最終上部構造へ反映させる新規デジタル技法. 平成 29 年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会. 山口市. 2017. 8. 26-27.
  - 1 3) 中川晋輔, 大野 彩, 前川賢治, 水口 一, 沼本 賢, 逢坂 卓, 三野卓哉, 黒崎陽子, 小山絵理, 中野田紳一, 窪木拓男: 日本人無歯顎患者における CAD/CAM 技術を用いて作成した総義歯の有効性の検討. 第 38 回岡山歯学会総会・学術集会. 岡山市. 2017. 10. 1.
  - 1 4) 村田尚道, 田尻絢子, 山本昌直, 前川享子, 綾野理加, 東 倫子, 小林 幸生, 廣田啓, 高石芽求, 細坪充裕, 関 愛子, 三谷裕子, 野島靖子, 森 貴幸, 江草正彦: 乳児における摂食機能療法の必要性. 第 34 回日本障害者歯科学会. 博多市. 2017. 10. 27-29
  - 1 5) 武田宏明, 渡邊翔, 野崎高儀, 小山梨菜, 塩津範子, 河野隆幸, 吉田登志子, 白井肇, 鳥井康弘: 在宅歯科医療シミュレーション実習の教育効果. 第 10 回日本総合歯科学会総会・学術大会. 新潟市. 2017. 11. 3-5
  - 1 6) 園井教裕, 曾我賢彦, 山中玲子, 室美里, 前田あずさ, 杉本恭子, 窪木拓男, 浅海淳一: 大学病院の医療現場を利用した「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」報告. 課題解決型高度医療人材養成プログラム 平成 29 年度 連携シンポジウム in 札幌. 札幌市. 2017. 11. 10-11.
  - 1 7) 武田宏明, 杉本恭子, 川瀬明子, 前田あずさ, 園井教裕, 村田尚道, 曾我賢彦, 鳥井康弘, 窪木拓男, 浅海淳一: e-learning システムの今後の有効活用に向けて. 課題解決型高度医療人材養成プログラム 平成 29 年度連携シンポジウム in 札幌. 札幌市. 2017. 11. 10-11.
  - 1 8) 前田あずさ, 武田宏明, 杉本恭子, 川瀬明子, 園井教裕, 前田直人, 森 貴幸, 野島靖子, 窪木拓男, 浅海淳一: 平成 29 年度「介護施設を用いた PBL 演習」の実施報告. 課題解決型高度医療人材養成プログラム 平成 29 年度連携シンポジウム in 札幌. 札幌. 2017. 11. 10-11.
  - 1 9) 園井教裕, 曾我賢彦, 浅海淳一: 歯学部 1 年次生及び学士入学生を対象とした病院見学実習が学生の終末期医療への態度意識に与えた影響. 日本がん口腔支持療法学会第 3 回学術大会. 岡山市. 2017. 11. 25-26.
  - 2 0) 縄稚久美子, 水口真実, 高橋賢晃, 戸原 雄, 前田あずさ, 黒井隆太, 菊谷 武, 窪木拓男: ミールラウンドを模した要介護高齢者栄養管理に関わる多職種連携ワークショップの試み. 第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会. 横浜. 2018. 2. 22-23.

#### 講演

- 1) 窪木拓男: 歯科技工のパラダイムの転換ー口腔インプラントの現状と未来ー. 岡山市歯科医師会立岡山技工専門学校 特別講義. 岡山市. 2017 年 1 月.
- 2) 窪木拓男: 補綴治療の有効性評価とガイドライン作成における問題. 九州大学大学院 特別講義. 福岡市. 2017 年 2 月.
- 3) 窪木拓男: 歯を失った際に現状でできることと将来展望ー口腔インプラントと再生医療ー.

- 第 60 回岡大サイエンスカフェ. 岡山市. 2017 年 4 月.
- 4) 曾我賢彦: がんと口腔管理. 病院歯科介護研究会 104 回定例会. 岡山市. 2017 年 5 月.
  - 5) 窪木拓男: Biological regenerative medicine in prosthodontic practice - to attain reliable and sophisticated dental implant therapy. 岡山大学医歯薬学総合研究科選択プログラム講義 ライフサイエンス入門. 岡山市. 2017. 5. 30.
  - 6) Kuboki T.: Scientific committee member of the consensus conference: The standard of treatment for edentulous mandible. 10-th PSI and 1-st ICOI Europe. Krakow. 2017. 6. 8-10.
  - 7) 曾我賢彦: 周術期等における口腔内管理の意義と実際. 大阪府歯科医師会 平成 29 年度学術講演会. 大阪市. 2017 年 6 月.
  - 8) 曾我賢彦: 口腔衛生管理はなぜ必要か?—口腔内細菌叢および抗菌薬耐性の見地から. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸市. 2017 年 7 月.
  - 9) 曾我賢彦: がん口腔支持療法の担い手の養成—歯学生および研修歯科医を対象としたカリキュラム構築の試み—. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 神戸市. 2017 年 7 月. (資料 21)
  - 10) 村田尚道: 摂食・嚥下について. 平成 29 年度岡山県老人保健施設協会栄養士部会 第 1 回研修会. 岡山市. 2017 年 8 月.
  - 11) 村田尚道: 「摂食嚥下リハビリテーション総論」, 「摂食嚥下機能の評価」. 平成 29 年度鳥取食支援研修会. 鳥取市. 2017 年 8 月.
  - 12) 曾我賢彦: がん化学療法時の口腔管理の意義と実際. 三重県医科歯科連携推進人材養成事業「医科歯科連携推進人材養成研修会」. 津市. 2017 年 9 月
  - 13) 窪木拓男. 健康長寿社会の歯科医学教育. 平成 29 年度岡山大学歯学部同窓会連絡協議会. 岡山市. 2017 年. 10 月.
  - 14) 曾我賢彦: 歯科医療職としての誇りをもって患者の尊厳を守る—造血細胞移植を受けたがんサバイバーから学ぶこと—. 日本がん口腔支持療法学会第 3 回学術大会. 岡山市. 2017 年 11 月.
  - 15) 窪木拓男: 歯を失った際に現状でできることと将来展望 ~口腔インプラントと再生医療~. 中央区民カレッジ・まなびのコース (連携講座). 東京. 2017 年 12 月.
  - 16) 村田尚道, 綾野理加, 前川享子, 村田麻美, 山本昌直, 田尻綾子: 障碍児の摂食嚥下障害への対応. 「障碍児の摂食嚥下障害への対応」研修会. 岡山市. 2017 年 12 月
  - 17) 杉本恭子: 高齢者の健康長寿延伸をめざす咀嚼能力評価装置. 岡山大学知恵の見本市 2017. 2017 年 12 月.
  - 18) 窪木拓男: 高齢者へのインプラントを考える. 岡山大学同窓会岡山県支部講演会. 岡山市. 2018 年 1 月.
  - 19) 曾我賢彦: 周術期口腔機能管理 (がん支持療法) のこれから 都道府県がん診療連携拠点病院 大学病院 (教育機関) 歯科の立場から. 第 36 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会. 新潟市. 2018 年 1 月. (資料 22)
  - 20) 窪木拓男: なぜ, 補綴歯科専門医制度が必要か?—全人的補綴歯科治療と症型分類—日本補綴歯科学会東関東支部総会 専門医研修会. 浦和市 2018 年 2 月.

#### 招聘講演

- 1) Kuboki T.: Differential diagnosis and treatment strategies for occlusal change induced by degenerative temporomandibular joint diseases. The annual meeting of Korean Academy of Stomatognathic Function and Occlusion. Seoul. 2017. 10. 13-17.
- 2) Kuboki T.: Biological regenerative medicine in prosthodontic practice -to attain reliable and sophisticated dental implant therapy. SNU Graduate School of Dentistry, Special Lecture. Seoul. 2017. 10. 16.
- 3) Kuboki T.: Clinical research designing -to get concrete knowledge for world-level clinical studies-. International Clinical Research Designing Workshop 2017 in Haiphong. Haiphong. 2017. 11. 3-4.
- 4) Kuboki T.: Collaboration between soft tissue management and oral implant therapy to attain optimum esthetic results. The International Odonto-Stomatology Conference 2017. Hanoi. 2017. 11. 6-8.

#### シンポジウム

- 1) 窪木拓男: 岡山大学病院周術期管理センターを利用した多職種連携教育の試み. 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ in 昭和大学. 東京. 2017. 4. 22.
- 2) 窪木拓男: ミールラウンドを模した多職種連携ワークショップを経験して. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会. 松本市. 2017. 7. 28-29.

- 3) 窪木拓男：健康長寿社会を担う歯科医学教育・研究改革. 第3回鹿児島国際歯学シンポジウム. 鹿児島市. 2017. 11. 25.
- 4) Kuboki T. :Rapid tooth destruction and bite collapse induced by the root surface erosion in the older people requiring nursing care. OCT 国際シンポジウム岡山. 岡山市. 2017. 11. 30.

#### 企画

- 1) 片岡竜太, 倉田知光, 小原真知子, 鶴岡浩樹, 松井由美子, 越野 寿, 窪木拓男. 第64回MEDCワークショップ WS-1: 臨床実習前IPL(多職種交流授業)を企画する. 第64回医療教育セミナーとワークショップ in 昭和大学. 東京. 2017. 4. 22. (資料26)
- 2) 窪木拓男, 縄稚久美子, 水口真実, 前田あずさ:岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第6回公開セミナー(真庭地域). 真庭市. 2017. 9. 3.
- 3) 窪木拓男:課題解決型高度医療人材育成プログラム選定事業健康長寿を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー成果発表. 岡山市. 2017. 11. 25-26. (資料27)
- 4) 窪木拓男, 縄稚久美子, 水口真実, 前田あずさ:岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第7回公開セミナー(県南西部井原地域). 井原市. 2017. 12. 3.
- 5) 窪木拓男, 縄稚久美子, 水口真実, 前田あずさ:岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第8回公開セミナー(県南東部). 岡山市. 2017. 12. 17.

#### 座長

- 1) 窪木拓男：特別講演「食べる楽しみを支える在宅医療」. 岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第6回公開セミナー(真庭地域). 真庭市. 2017. 9. 3.
- 2) 窪木拓男. :特別講演「オーラルフレイルとは：老年学の視点から」. 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人材養成)選定事業健康長寿社会を担う歯科医学教育改革ー死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築ー平成29年度連携シンポジウム in 札幌. 札幌市. 2017. 11. 10-11.
- 3) 窪木拓男：特別講演1「家庭医が行う訪問診療の現場から見た『食』とは?」. 岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第7回公開セミナー(県南西部井原地域). 井原市. 2017. 12. 3.
- 4) 窪木拓男：特別講演3「地域・在宅高齢者の『食』に寄りそう」. 岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」第8回公開セミナー(県南東部). 岡山市. 2017. 12. 17.

#### 受賞

- 1) 園井教裕：第9回日本歯科医学教育学会国際学会研究発表奨励賞
- 2) 窪木拓男, 杉本恭子, 武田宏明, 村田尚道, 園井教裕, 前田あずさ, 川瀬明子, 曾我賢彦, 岡田純幸：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教育功労賞

#### その他(報告書)

- 1) 窪木拓男, 前川賢治, 縄稚久美子, 水口真実, 三野卓哉, 前田あずさ, 三木春奈, 黒崎陽子, 小山絵理, 中川晋輔, 沼本 賢, 樫原由理, 野村 優：平成28年度岡山県医療介護総合確保基金事業「要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業」実績報告書. 岡山. 1-104, 2017.

#### 事業費の使途

- 設備備品費
- ・報告書作成, 講義用ノートPC
- 消耗品
- ・実習用器具, 公開講座開催用文房具, 講演DVD送付用封筒, 資料印刷用インクカートリッジ
- 旅費
- ・本事業に関連した学会への参加旅費, 在宅・歯科訪問診療教育シンポジウム招聘講師旅費

	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本事業推進のための特任助教および、事務員への人件費</li><li>・本事業成果公開のためのホームページ保守、追加開発費</li><li>・本事業に関連した学会への参加費</li></ul>
--	---

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻(号)・最初と最後の頁・発表年(西暦)の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。



平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	九州大学	連携大学 事業推進 委員	西村 英紀	事務担当者	福島 由紀
-------	------	--------------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示 の可否
事業組織	古谷野 潔	学部長	本プログラムの本学部総責任者。他大学プログラムの連携について総指揮を行う。	☑・否
	高橋 一郎	副研究院長	本学部カリキュラムの総責任者。本プログラムの運用に助言する。	
	中西 博	副研究院長	本学部開設科目講義担当者。	
	西村 英紀	副研究院長	本プログラム本学部の開設科目世話人及び他大学プログラム連携責任者。	
	中村 誠司	教授	本学部臨床実習責任者。	
	柏崎 晴彦	教授	本学部臨床実習担当者。	
	和田 尚久	教授	本学部臨床実習担当者。	
	山下 喜久	教授	本学部開設科目講義担当者。	
	重村 憲徳	教授	本学部開設科目講義担当者。	
教育プログラム・コース名	九州大学先導的「口腔から全身への健康学」教育の高度化プログラム口腔健康科学特論			
事業計画	<p>九州大学歯学研究院が重点領域と位置付ける、「口腔健康科学」「組織の再生・再建研究」のうち、本プログラムと密接に関連した、「口腔健康科学」分野のトピックスを課題解決型の授業として昨年に引き続き実施した。</p> <p>「口腔健康科学特論」5年次集中講義、時期：臨床実習開始直前            9月19日（火）            1時限（8:40～10:10）咀嚼と肥満（藤瀬多佳子非常勤講師）            2時限（10:30～12:00）肥満のバイオロジー（歯周病学：西村教授）            3時限（13:00～14:30）肥満・糖尿病の関連性の多様性の理解と解決（歯周病学：西村教授）            4時限（14:50～16:20）肥満と睡眠時無呼吸症候群（九州大学病院 睡眠時無呼吸センター：津田特任助教）</p>			

	<p>9月20日(水)</p> <p>1時限(8:40~10:10) 味覚と肥満(口腔生理学:重村教授)</p> <p>2時限(10:30~12:00) 口腔疾患と認知症(歯科薬理学:中西教授)</p> <p>3時限(13:00~14:30) 臨床医学統計データの解析方法とその解釈(口腔予防医学:吉田助教)</p> <p>4時限(14:50~16:20) 久山町研究から見る肥満・糖尿病と歯周病の関連性(口腔予防医学:山下教授)</p> <p>授業内容はビデオ収録し、コンテンツは連携大学に配信した。</p> <p>平成29年11月10日(金)及び11日(土)、北海道大学で開催された「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成29年度 連携シンポジウム」において、九州大学における周術期口腔機能管理の診療・教育体制についてポスター発表を行った。</p> <p>臨床実習の一環として在宅診療教育用高齢者シミュラを使った講義を5年生全員対象に実施した。</p> <p>その他、高齢者医療や嚥下評価などに関連する学会や研修会に参加した。</p>
成果	<p>すべての授業後に学生アンケートを実施し、次年度以降の授業に備え結果を講師にフィードバックした。</p> <p>在宅診療教育用高齢者シミュラを用いた高齢者歯科学・全身管理歯科学教育を推進するために、日本老年歯科医学会参加により、高齢者歯科学に関し著名な研究教育者達と意見交換し、本学の臨床実習・講義として還元した。</p> <p>新しい認知症介護技術ユマニチュードについてのセミナーに参加した。ユマニチュードは、高齢者とりわけ認知症患者のケアに有効とされるフランス由来のケアメソッドで、言語・非言語によるコミュニケーション技法に基づいた、立位補助、食事介助、清拭、入浴、更衣などの実践的な技術で構成されている。要介護高齢者のケアについての系統立てた指導プログラムを策定し、本学5年次の高齢者歯科学予備実習、本学6年次のリサーチエクスポージャーで口腔総合歯科学における『高齢者の口腔機能』の指導として還元した。</p>
本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等	<p>論文・研究発表</p> <p><b>【高齢者歯科学・全身管理歯科学関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Hassan NMM, Akhter R, Staudinger L, Tarpey N, Basha S, Cox S and <u>Kashiwazaki H</u>. Oral disease and malnutrition in the elderly - impact of oral cancer. <i>Curr Oral Health Rep</i>, 2017, doi: 10.1007/s40496-017-0126-2.</li> <li>柏崎晴彦. 口腔ケアがもたらす実務利益①患者における利益-全身管理(感染症予防)の側面から. <i>感染対策ICTジャーナル</i> vol.12 no.2, 113-118, 2017.</li> <li>柏崎晴彦他, 「改訂版 口腔ケア基礎知識」. 一般社団法人日本口腔ケア学会編, 永松出版, p. 183, 217, 2017.</li> </ol> <p><b>【栄養の経口摂取と摂食行動関連】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Yoshida R, Shin M, Yasumatsu K, Takai S, Inoue M, <u>Shigemura N</u>, Takiguchi S, <u>Nakamura S</u>, Ninomiya Y. The Role of Cholecystokinin in Peripheral Taste Signaling in Mice. <i>Front Physiol</i>. 2017 Oct 31;8:866. doi: 10.3389/fphys.2017.00866. eCollection 2017.</li> <li>Yoshida R, Takai S, Sanematsu K, Margolskee RF, <u>Shigemura N</u>, Ninomiya Y. Bitter Taste Responses of Gustducin-positive Taste Cells in Mouse</li> </ol>

Fungiform and Circumvallate Papillae. Neuroscience. 2018 369:29-39. doi: 10.1016/j.neuroscience.2017.10.047.

【医学統計関連】

6. Takeuchi K, Ohara T, Furuta M, Takeshita T, Shibata Y, Hata J, Yoshida D, Yamashita Y, Ninomiya T. Tooth Loss and Risk of Dementia in the Community: the Hisayama Study. J Am Geriatr Soc. 2017 65(5):e95-e100. doi: 10.1111/jgs.14791.
7. Kageyama S, Takeshita T, Furuta M, Tomioka M, Asakawa M, Suma S, Takeuchi K, Shibata Y, Iwasa Y, Yamashita Y. Relationships of variations in the tongue microbiota and pneumonia mortality in nursing home residents. J Gerontol A. Biol Sci Med Sci. 2017 doi: 10.1093/gerona/glx205. [Epub ahead of print]

【肥満・糖尿病関連】

8. Tsuruta M, Iwashita M, Shinjo T, Matsunaga H, Yamashita A, Nishimura F. Metabolic Endotoxemia-Activated Macrophages Promote Pancreatic  $\beta$  Cell Death via  $IFN\beta$ -Xaf1 Pathway. Horm Metab Res. 2017 doi: 10.1055/s-0043-121467. [Epub ahead of print]
9. Matsunaga H, Iwashita M, Shinjo T, Yamashita A, Tsuruta M, Nagasaka S, Taniguchi A, Fukushima M, Watanabe N, Nishimura F. Adipose tissue complement factor B promotes adipocyte maturation. Biochem Biophys Res Commun. 2018 495(1):740-748. doi: 10.1016/j.bbrc.2017.11.069.
10. Takano A, Fukuda T, Shinjo T, Iwashita M, Matsuzaki E, Yamamichi K, Takeshita M, Sanui T, Nishimura F. Angiotensin-like protein 2 is a positive regulator of osteoblast differentiation. Metabolism. 2017 69:157-170. doi: 10.1016/j.metabol.2017.01.006.

【認知機能関連】

11. Wu Z, Ni J, Liu Y, Teeling JL, Takayama F, Collcutt A, Ibbett P, Nakanishi H. Cathepsin B plays a critical role in inducing Alzheimer's disease-like phenotypes following chronic systemic exposure to lipopolysaccharide from Porphyromonas gingivalis in mice. Brain Behav Immun. 2017 350-361. doi: 10.1016/j.bbi.2017.06.002.
12. Liu Y, Wu Z, Nakanishi Y, Ni J, Hayashi Y, Takayama F, Zhou Y, Kadawaki T, Nakanishi H. Infection of microglia with Porphyromonas gingivalis promotes cell migration and an inflammatory response through the gingipain-mediated activation of protease-activated receptor-2 in mice. Sci Rep. 2017 7(1):11759. doi: 10.1038/s41598-017-12173-1.

事業費の使  
途

備品

e-learning機器増強（スピーカー）

消耗品

講義使用用紙

旅費

名古屋国際会議場 4名 「日本老年歯科医学会」

北海道大学歯学部 7名 本事業に係る「連携シンポジウム」

国立病院機構東京医療センター 1名 「ユマニチュード入門コース」

その他

「ユマニチュード入門コース」 参加費

非常勤講師謝金×2名

e-learning収録のためのTA雇用×2名

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。



## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	長崎大学	連携大学事業推進委員	澤瀬 隆	事務担当者	馬場 敬三
-------	------	------------	------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	澤瀬 隆 齋藤 俊行 角 忠輝	教授(口腔インプラント学) 教授(口腔保健学) 教授(総合歯科臨床教育学)	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当	可 否
教育プログラム・コース名	長崎大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム・離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習			
事業計画	<p>長崎県は全国で最も多くの離島を有し、離島地域の高齢化率は35%を超え、わが国の超高齢社会がすでに具現化されている。健康長寿社会の貢献マインドを涵養するにあたり、この地は絶好の教育現場であると言える。長崎大学歯学部では離島等の地域歯科医療を担う歯科医師養成を目的として、五島市内各所の施設を利用して、医学部、薬学部と共に多職種連携による「地域医療一貫教育」を行う。すなわち、医歯薬の医療系3学部の共修で、実際に学生が離島に赴き、滞在し、離島医療を実体験しながら医療・保健・福祉学を学ぶことで、在宅介護実習と医科歯科連携を実践する。さらには昨年に引き続き、他大学選択履修者を対象とした同実習をサマースクールとして実施する。</p> <p>平成29年度の事業計画は以下のとおりである。</p> <p>① 8月～9月 他大学選択履修者を対象としたサマースクールを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習方法：本年度は1クール4名程度の他大学選択履修者に対し、連続5日間五島市にて滞在型実習を実施（2クール計8名）。病棟に始まり、一般歯科まで重症度・介護度が軽くなるように実習施設を配し、さまざまな身体状況の方々の医療介護の現場で歯科医として求められるものはなにかを学生に考察させる。</li> <li>月AM 離島実習全般/口腔嚥下ケア講義（五島市内宿泊施設）</li> <li>月PM 病棟嚥下回診（五島中央病院病棟）</li> <li>火 特別養護老人ホーム 介護と口腔嚥下ケア（只狩荘）</li> <li>水 通所介護 介護と口腔嚥下ケア（社会福祉協議会富江支所デイサービス）</li> <li>木 歯科医院 2次離島・往診等（岐宿歯科診療所、久賀歯科診療所）</li> <li>金AM グループディスカッション（五島市内宿泊施設）</li> </ul> <p>② 10月～3月 本年度診療参加型臨床実習開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習方法：1組4～5名ずつ、H29年10月から11クールに分かれて、連続5日間五島市にて滞在型実習を長崎大学臨床実習生に対して実施（年間計53名）</li> <li>・実習項目、到達目標のガイダンスとディスカッション</li> <li>・離島歯科口腔医療実習：民間歯科医院による往診に帯同し、見学ならびに補助を行う。</li> <li>・離島福祉施設実習：五島市社会福祉協議会デイサービス、デイ・はまゆうおよび要介護施設只狩荘にて介護スタッフの補助、口腔ケアの実践を行い、高齢者歯科保健に必要な知識、態度、技能を学ぶ。また福祉現場での介護スタッフとの連携を体験する。</li> <li>・離島保健医療実習：五島市健康政策課・長寿介護課における、行政が実施している保健予防事業への参加を通じて公衆衛生上、必要な知識、態度、技能を学ぶ。</li> <li>・グループディスカッション：各学生のポートフォリオを基に同クールに参加の医学部、薬学部学生とともにグループディスカッションを行い、互いの学びの共有、問題点の抽出を行う。</li> </ul> <p>③ 11月 平成29年度連携シンポジウム（北海道大学）ならびに同事業推進委員会に出席</p> <p>④ 2月 長崎大学地域医療協働センターとの共催で公開講演会「歯周病と全身の関連—地域連</p>			

	携の可能性」を開催 ⑤ 2月 平成29年度下五島地区離島医療教育研究会（五島市）にて実習指導報告
成果	① 7月31日～8月4日 離島医療サマースクール第1クール実施（昭和大1名、長崎大2名） ② 9月4日～8日 離島医療サマースクール第2クール実施（岡山大2名、長崎大1名）（資料33） ③ 10月～平成30年3月 本年度診療参加型臨床実習 ④ 11月10日～11日 平成29年度連携シンポジウム（北海道大学）ならびに同事業推進委員会に出席（澤瀬、齋藤、小山、多田） ⑤ 2月17日 長崎大学地域医療協働センターとの共催で公開講演会「歯周病と全身の関連—地域連携の可能性」を開催（五島市） ⑥ 2月20日 平成29年度下五島地区離島医療教育研究会（五島市）にて実習指導報告（角、多田）（資料34）
本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等	論文・研究発表 1. <u>小山 善哉</u> , <u>多田 浩晃</u> , <u>岩崎 理浩</u> , <u>齋藤 俊行</u> , <u>角 忠輝</u> , <u>澤瀬 隆</u> ：長崎大学歯学部離島歯科保健医療サマースクール報告 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成）選定事業 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—平成29年度連携シンポジウム，札幌，11月 {プログラム・抄録集，p32，2017} 2. <u>角 忠輝</u> , <u>小山善哉</u> , <u>齋藤俊行</u> , <u>澤瀬 隆</u> ：歯学部臨床実習生による平成28年度離島医療保健実習報告（於 平成29年度下五島地区離島医療教育研究会 五島市）  知財 無し  受賞等 無し
事業費の使途	設備備品費 双眼ルーペ（株松風 MICDルーペ TTLタイプ） 123,000円 平成29年度離島医療保健実習における老人保健施設訪問診療（只狩荘）や在宅診療口腔ケアおよび摂食・嚥下リハビリテーション教育に使用した。  旅費：国内旅費 サマースクール実施に係る事前打合せ 1名 27,400円 サマースクール実施（学生6名、引率のべ4名）381,460円 シンポジウム（北海道大学）参加 4名 329,380円 下五島地区離島医療教育研究会参加 1名 26,700円  謝金：サマースクールにおける実習施設 8件 46,750円  消耗品：離島実習等に使用する消耗品類一式 65,310円

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。

## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	鹿児島大学	連携大学事業推進委員	宮脇 正一	事務担当者	濱平 幸典
-------	-------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	宮脇 正一 西村 正宏 田口 則宏  南 弘之	歯学部長 副学部長 臨床教育部会委員 臨床教育部会長	事業責任者 教育カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター  講義コンテンツ作成	可
教育プログラム・コース名	鹿児島大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム 「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」			
事業計画	<p>【目的】住民の高齢化と医療過疎の問題を抱える地域・離島における歯科診療の実態を理解させることで、地域のニーズに応じた包括的歯科医療を推進できる歯学生・歯科医療人を養成する。</p> <p>【計画】</p> <p>1) 昨年度から開始した、「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」のタイトルで講義および体験型実習（奄美大島、与論島、種子島、徳之島、沖永良部島、屋久島への派遣型歯科医療実習）形式の教育コースを、引き続き本学歯学部生対象に開講する。これにより高齢化と医療過疎の問題を抱えたこれらの島々をモデル地域として、地域医療を大切にする医療人マインドに富んだ歯学部学生の育成を図る。この教育コースの対象学生は、本学歯学部生のみでなく、ビデオ録画を利用したe-learning形式の授業と、派遣型歯科医療実習への参加募集によって、本事業の他の連携大学歯学部生にも受講可能とする。</p> <p>2) 平成27年度に介護歯科医療シミュレータを、平成28年度にポータブルユニットを歯学部学生臨床実習用スキルラボに導入し、訪問診療ならびに高齢者歯科医療の臨床実習の場を実現した。昨年度から臨床実習の全学生を対象に実施しているが、本年度の臨床実習より本実習を臨床実習カリキュラムに組み込んで実施する。</p> <p>3) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催 「グローバルな健康長寿を実現する歯学教育と臨床研究」をテーマに、超高齢社会に対応する歯学教育と臨床研究のあり方について国内の大学と行政の有識者に加え、インドネシアにおける臨床研究について本学歯学部の協定校であるエアランガ大学からお二人の先生をお招きして、お話し頂く予定。本シンポジウムにより、参加者の超高齢社会へ対応するための歯学教育と臨床研究への理解が深まり、それが今後の健康長寿に向けた歯学教育の改革に繋がることを期待する。</p>			
成果	<p>【平成29年度の活動状況】</p> <p>1) 特色ある医療支援歯学教育プログラム「奄美大島・与論島における口腔と全身の健康学コース」の実施</p> <p>① 講義：講義「地域・離島歯科医療学」において、多職種連携や病診連携、離島や医療過疎地域を含む地域での口腔保健活動など、地域における歯科医療活動に関する講義を行なった。計7回の講義の内容を、本プログラムによって整備されたコンテンツ作成システム（3eRecⅢ）を用いて収録し、ビデオコンテンツの作成に備えている。</p> <p>② 体験型実習：本学の学生については、平成29年4～7月に種子島、奄美大島、徳之島およ</p>			

	<p>び与論島において合計43名の6年生が4泊5日の実習に参加した。平成29年8月には、種子島および与論島で3泊4日間の実習を企画し、連携大学の岡山大学から2名、昭和大学から1名および大阪大学から1名の歯学部生の参加があり、実習後のアンケートでも受講者から高い評価を得た。</p> <p>2) スキルラボの充実 平成27年度に本プログラムより配分された高齢者歯科医療に対する介護歯科医療シミュレータ、および平成28年度に配分されたポータブルユニットを用いて、本学ではスキルラボにおいて臨床教育を行っている。平成28年度より全臨床実習生に対して実習を行っており、今年度も継続して実施している。</p> <p>3) 鹿児島国際歯学シンポジウムの開催 (資料35) 平成29年11月25日に鹿児島大学にて第3回鹿児島国際歯学シンポジウムを開催し、212名の参加者があった(別紙ポスターあるいは<a href="http://w3.hal.kagoshima-u.ac.jp/program/1/354-symposium.html">http://w3.hal.kagoshima-u.ac.jp/program/1/354-symposium.html</a>参照)</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 田口則宏. アウトカム基盤型教育 今後のカリキュラム改革の方向性, 北海道大学歯学部FD講演, 2017年6月, 札幌市.</li> <li>2. 中山 歩, 田口則宏, 南 弘之. 地域歯科医療プログラムの実践—地域で活躍する医療人の育成—, 第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2017年7月, 松本市.</li> <li>3. 大戸敬之, 松本祐子, 中山歩, 作田哲也, 古川周平, 岩下洋一郎, 吉田礼子, 田口則宏. 離島歯科医療に求められるコンピテンシーについての—考察—島の歯医者語りを通じて—, 第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2017年7月, 松本市.</li> <li>4. 田口則宏, 小松澤均, 吉田礼子, 西 恭宏, 宮脇正一. 地域基盤型歯学教育における新たな取り組み, 第36回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 2017年7月, 松本市.</li> <li>5. 大戸敬之, 古川周平, 岩下洋一郎, 中山歩, 作田哲也, 松本祐子, 吉田礼子, 田口則宏. 鹿児島大学歯学部のプロフェッショナルリズム教育と歯学生の理想の医療者像, 第49回日本医学教育学会, 2017年8月, 札幌市.</li> <li>6. 村永文学, 田川まさみ, 田口則宏. 岩下洋一郎, 金子美千代. 医学・歯学・看護学教育のコンピテンシーとマイルストーン評価機能を有したe-ポートフォリオの開発, 第49回日本医学教育学会大会, 2017年8月, 札幌市.</li> <li>7. 田口則宏, 古川周平, 吉田礼子, 松本祐子, 岩下洋一郎, 中山 歩, 大戸敬之, 作田哲也. 地域歯科医療教育に求められるもの—プロフェッショナルリズムとの関連を見据えて—, 日本総合歯科学会雑誌9:11-18, 2017.</li> <li>8. 大戸敬之, 松本祐子, 中山 歩, 作田哲也, 古川周平, 岩下洋一郎, 吉田礼子, 田口則宏. 総合歯科医の成長過程についての—考察—島の歯科医の語りから—, 第10回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2017年11月, 新潟市.</li> <li>9. 田口則宏, 吉田礼子, 松本祐子, 岩下洋一郎, 中山 歩, 大戸敬之, 作田哲也, 古川周平. 総合歯科の理解を目指した卒前学外実習プログラム, 第10回日本総合歯科学会総会・学術大会, 2017年11月, 新潟市.</li> <li>10. 宮脇正一, 南 弘之, 田口則宏, 西村正宏, 杉浦 剛, 小松澤 均. 鹿児島大学歯学部の取り組みについて, 平成29年度 連携シンポジウム, 2017年11月, 札幌市.</li> <li>11. 田口則宏. アウトカム基盤型教育歯学教育への導入, 日本大学松戸歯学部FD教育講演会, 2018年1月, 松戸市.</li> <li>12. 田口則宏. アウトカム基盤型教育の理論と実践, 長崎大学歯学部FD講演会, 2018年2月, 長崎市.</li> </ol> <p>知財：なし</p> <p>受賞等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 田口則宏, 日本総合歯科学会 学会論文賞 2017年11月</li> <li>2. 大戸敬之, 第10回日本総合歯科学会学術大会 一般ポスター発表入賞 2017年11月</li> </ol>



事業費の使途	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島国際歯学シンポジウムポスター・プログラム</li> <li>・鹿児島国際歯学シンポジウム抄録集</li> <li>・高齢者歯科医療実習器具・消耗品</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島実習に係る引率（種子島・与論島）</li> <li>・鹿児島国際歯学シンポジウム学外者招聘（海外2名）</li> <li>・平成29年度 連携シンポジウム 出席（11/10-11/11 北海道大学）</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生実習宿泊所室料（種子島・与論島）</li> <li>・学生実習受入謝金（種子島・与論島）</li> </ul>
--------	--

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。



## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	岩手医科大学	連携大学事業推進委員	城 茂治	事務担当者	近藤 敬
-------	--------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	三浦廣行 城 茂治 佐藤和朗 石崎 明 野田 守 岸 光男 阿部晶子 玉田泰嗣	歯学部長 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部教授 歯学部准教授 歯学部助教	プロジェクト統括 教育コンソーシアム事業推進委員 実習コーディネーター カリキュラム開発・編成担当 実習コーディネーター 実習コーディネーター 実習コーディネーター 実習コーディネーター	<input checked="" type="checkbox"/> ・否
教育プログラム・コース名	入院時・災害時のベッドサイドにおける食支援と口腔ケアに関する教育の高度化プログラム			
事業計画	<p>本教育プログラムの目的は非常時（入院時・災害時）において、他職種連携の上で専門的な口腔のリハビリテーション、ケア、管理を行い、ベッドサイドにおける食べる機能の支援と感染防御を实践できる研究能力を持った指導的な口腔機能の専門家を養成することにある。</p> <p>平成29年度は、前年度の反省点に留意しつつ本教育プログラムを実施する。また、各実習コースの実施中ならびに終了時に本年度の教育成果を各コース責任者とともに分析し、次年度以降の更なる成果が得られるような改善のための問題点を抽出するとともに、それに応じた対策をとる。加えて、本年度教育内容の反省点をもとに平成30年度に向けた実質的な新規大学院シラバス案を作成し、実りある教育プログラムの実施に向けて準備を進める予定である。なお、今年度は大学院共通教育コースの選択必修科目としての位置づけとする。</p>			
成果	<p>1. 「被災地口腔ケア・食支援実習」</p> <p>平成27年には大学院の選択コースとして正規の課程に組み入れた本実習は、今年度に3年目を迎えた。11月期（平成29年11月12日～13日）に大学院生3名計2日の実習を実施した。実習の内容は平成28年度と同様に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 被災地における健康調査への参加</li> <li>② 被災地の復興状況の視察</li> <li>③ 被災地におけるミニシンポジウムへの参加（地元歯科医師、保健師の参加）</li> <li>④ 被災地研修後に指導者が研修により得られたデータを統計解析ソフト SPSS により解析後、分析結果の相互プレゼンテーションとした。</li> </ol> <p>評価のため事後にアンケートを実施した。その結果、参加者のほとんどが大学院研修または若手歯科医師の研修として本研修が「非常に役立った」また「役立った」と評価した。自由記載欄への回答からは被災地での実体験の重みを感じて感想として記載する者が多かった。</p> <p>2. 「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」の実習を下記の通り実施した。</p> <p>第1回：3月13日（火） 15時～19時</p> <p>摂食嚥下のメカニズムと障害、診察法、スクリーニングテスト、精密検査</p> <p>15時～15時5分 開会挨拶</p> <p>15時5分～15時15分 プリアンケート</p>			

	<p>15時15分～16時10分 摂食嚥下概論、メカニズム、摂食嚥下障害の診察  16時15分～17時10分 治療計画立案、嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査（VE）  17時20分～18時30分 実習：治療計画、スクリーニングテスト、VE、摂食場面の観察  18時30分～19時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>第2回：3月20日（火） 15時～19時  摂食嚥下リハビリテーションと栄養</p> <p>15時～15時5分 開会挨拶  15時5分～15時15分 プレアンケート  15時15分～16時10分 栄養概論、介護概論、口腔ケア概論  16時15分～17時10分 実習：口腔ケア（病棟）、OHATによる口腔内評価、介護  17時20分～18時10分 実習：直接訓練、間接訓練  18時20分～19時 まとめ、質疑応答、ポストアンケート</p> <p>3. 「在宅介護・訪問歯科診療実習」を平成29年度より選択実習として導入した。  本実習は、「摂食嚥下リハビリテーション・口腔ケア実習」と連携し、病院あるいは施設からの摂食嚥下の評価、訓練指導の依頼に応じて訪問する際に大学院生を帯同し、実習を行うものである。帯同にあたり関連課題の事前学習として、eラーニングコンテンツ（講義シリーズ3）より選択し、閲覧させると共に持参する機器の周知を図るため機器の取り扱いについて事前訓練を行うこととした。</p> <p>4. コンテンツ視聴システムの利用  平成28年度に引き続き、コンテンツ視聴システムの利用を実施した。第5学年「総合講義Ⅰ」において、講義シリーズ3（在宅介護医療）のe-learningコンテンツを視聴させ、終了後に小テストを実施した。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表  岩手医科大学歯学会・岩手県歯科医師会共催シンポジウム「東日本大震災から5年を振り返って～我々がしてきたこと、してこなかったこと、これからすべきこと～」事後報告書  三浦廣行、杉山芳樹、大黒英貴、多田康子、晴山婦美子、大友さつき、小田郁子、森谷俊樹、岸光男、佐々木憲一郎、中里迪彦  岩手医科大学歯学雑誌、第42巻（Suppl.）：1-51頁、2017年</p>
<p>事業費の使途</p>	<p><b>旅費 292,420円</b>  【国内旅費】292,420円  平成29年度連携シンポジウム 11月 北海道  教員 3名 52,040円×1名（1泊2日）+67,340円×1名（1泊2日）+44,970円×1名（1泊2日）=164,350円  教育プログラム 11月 釜石・大槌（岩手）  学生 3名 14,200円×3名=42,600円（1泊2日）  交通運搬費 81,900円（盛岡⇄釜石市・大槌町 移動分）  3,570円（現地 移動分）</p> <p><b>謝金 38,979円</b>  教育プログラムにかかる外部講師謝金 及川 陽次（開業医）38,979円</p> <p><b>設備備品費 3,373,903円</b>  訪問診療用ユニット 675,000円  コンテンツ作成マシン 2,698,903円</p>

- ※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。
- ※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付けてください。In press となったもの以上を記入してください。
- ※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。

## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築－」事業

連携大学名	日本大学	連携大学事業推進委員	本田和也	事務担当者	鈴木輝一
-------	------	------------	------	-------	------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	本田和也 鈴木直人 植田耕一郎	歯学部長 学務担当 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム教育カリキュラム開発・編成担当 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター	可
教育プログラム・コース名	日本大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム アドバンスト歯科学講義・実習－摂食機能療法学・高齢者歯科学演習			
事業計画	<p>1. 平成30年・31年度以降の臨床実習カリキュラムの見直し</p> <p>①. 平成29年度における第6学年臨床実習カリキュラムの再検討： 平成28年度に再編成した実習内容を反映し，平成29年度は完成された内容の基礎実習・臨床実習を行う。基礎実習は従来の実習内容（学生同士の相互実習・最終形に改良した口腔機能管理模型を使用した治療計画の立案とプレゼンテーション・グループディスカッション）を実施する。また，基礎実習後にOSCE形式の実習試験を行い，学生へのフィードバックの不足を補うための講義を最終回の講義で実施する。臨床実習は，外来や日本大学病院，特別養護老人ホームへの病棟往診の見学を行い，実習終了後にグループごとの症例報告および口頭試問を実施する。</p> <p>②. 口腔機能管理模型設計の完成： 平成28年度の実習後に出された改良点を反映した最終型の口腔機能管理模型を作成する。</p> <p>③. 平成30年度・31年度以降の第5・6学年の臨床実習カリキュラムの見直し： 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に基づき，本学部での臨床実習のカリキュラムを根本的に見直し，平成30年度以降に実施するための改変を検討する。</p> <p>2. 連携大学への学生の派遣（特色ある医療支援私学教育プログラム・連携大学間交流）： 連携大学との交流と異なる環境での医療教育を経験することで，学生により幅広い知識と臨床経験を習得させることを目的として，岡山大学で行われる周術期口腔管理演習に本学第5学年の学生を派遣する。</p> <p>3. 開発模型を用いた一般・医療従事者・介護福祉関係者向け教材の作成： 平成28年度に企画したDVDの作成および，You Tubeで視聴するための動画を作成し投稿することで，一般市民から医療・介護・福祉職種まで広く視聴できる環境を整備する。</p> <p>4. eラーニングコンテンツ収録： 「歯学生・歯科医療従事者のための摂食嚥下リハビリテーション」に関する以下のコンテンツを収録する。</p> <p>① 総論 ② 摂食嚥下の生理学 ③ 要介護・有病高齢者への口腔ケア ④ 摂食嚥下機能評価・画像診断 ⑤ 摂食嚥下リハビリテーション（間接訓練・スクリーニング検査） ⑥ 食支援・栄養サポート</p> <p>地域医療・多職種連携に関わる視覚教材の作成： 一学年の学生数が多いことから，すべての学生が訪問歯科診療や地域医療，多職種連携の現場の様子を見学できる環境がないため，診療風景の動画撮影に対して同意が得られた患者については，動画を作成し，動画の編集を行い学生に対する症例検討のための視覚教材を作成する。</p>			

	<p>5. 地域医療・多職種連携に関わる視覚教材の作成： 患者・家族・施設職員等の同意を得た上で、当診療科での診療の様子を撮影し、学生への視覚教材を作成する。</p>
<p>成果</p>	<p>1. 平成30年・31年度以降の臨床実習カリキュラムの見直し</p> <p>① 平成29年度における第6学年臨床実習カリキュラムの再検討については、これまでの学生へのアンケート内容と、教員からの指摘事項を反映した実習内容に変更することができた。また、顎歯模型についても設計について最終的なモデルが完成し、昨年度より模型の台数を増やすことができた。このことで模型一台あたりに対する学生の人数が少なくなり、より時間をかけて模型の観察を行い、治療計画を立案することができた。これにより学生の有病高齢者の口腔内の状況と求められる対応方法についてより現実的に検討できたと考えられる。さらに、OSCEの解説を最終講義で行い、学生へのフィードバックを行うことで学生の理解が深まったと考えられる。一方、臨床実習は例年通りの学生の配当で滞りなく実施することができた。しかし病棟や在宅・施設への訪問歯科診療の件数と同行できる範囲（徒歩圏内）が限られていることから、すべての学生に対して訪問歯科診療や多職種連携の現場の見学を提供することが難しく、その点が今後の課題であると考えられた。</p> <p>② 平成30年度・31年度以降の第5・6学年の臨床実習カリキュラムの見直し： 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に基づく本学部カリキュラム策定について、平成29年度日本大学歯学部教学課題研修会と題し、学外から講師を招聘して他大学での地域包括ケアに対応した卒前歯科教育の取り組みについて基調講演が行われた。その後、本学臨床実習における「チーム医療・地域医療」の現状と問題点について、「地域包括ケアとは？」を含めた学内講師による基調講演を聴講した。その後、学部内の診療科より参加した教員を2グループに分け、グループミーティングおよびプレゼンテーションを行った。この研修会で判明した大きな問題点は、教員の多くが自身の歯科ユニットを離れて外に出て診療するという訪問歯科診療に対するイメージを十分に理解していないこと、130名近くの学生を訪問歯科診療に同行させるための研修先（病棟・施設・在宅）の確保が難しいこと、そもそも学生のモチベーションの個人差が大きく受け身の学生も多くいること、指導する教員数が足りないことなどがあげられた。これらの問題点の解決を大前提として、平成30年度は現行の通りに実習を実施するが、平成31年度以降は現在第6学年に行っている実習を第5学年で実施し、第5学年で行う通常の実習の中で訪問歯科診療を含めた地域医療や多職種連携に関わる実習を履修する方向で調整が進めることとなった。カリキュラムの再編成には学年を超えた対応が必要になるため、各科の教員の理解と柔軟な対応が求められる。非常に難しい点もあるが、具体的な変更内容については次年度以降に学部内で検討をすすめ、本学でのカリキュラムの編成を行う予定である。</p> <p>2. 連携大学への学生派遣（特色ある医療支援私学教育プログラム・連携大学間交流） 昨年度に引き続き、岡山大学における周術期口腔管理演習に本学第5学年の学生2名を派遣した。国立大学での実習プログラムを履修し、周術期管理センター術前外来での実習や、外来化学療法室見学、Bio-Clean Roomの見学等の貴重な実習を履修することができ、学生にとって非常に有意義な演習となった。</p> <p>3. 開発模型を用いた一般・医療従事者・介護福祉関係者向け教材の作成： 昨年より、医療法人社団光生会平川病院と共同で、作成を企画・検討していた開発模型を用いた一般市民・医療従事者・介護福祉関係者向け教材（DVD）を作成した。「寝たきりになった時の口腔ケア」と題し、要介護高齢者および有病高齢者や、口腔ケアに拒否を示す患者に対する口腔ケアの導入・手技等を動画で詳細に解説している。また、この教材の特徴として、歯科医療従事者以外の職種で取り扱いが困難な義歯の着脱や清掃方法についても動画と音声を用いて解説している。このDVDの内容をYouTubeにアップし、医療従事者だけでなく、一般市民にも内容を広く公開している。</p> <p>4. e-ラーニングコンテンツ収録（平成30年2月上旬ごろにすべての収録終了予定）： e-ラーニングのコンテンツとして「歯学生・歯科医療従事者のための摂食嚥下リハビリテ</p>

	<p>ーション」と題し、6回シリーズで講義を収録した。当講座で行っている摂食嚥下リハビリテーションの概念を含めた総論、生理学、要介護高齢者および有病高齢者に対する口腔ケア、画像診断と機能評価、摂食機能療法における訓練内容、さらに栄養・食事指導について解説している。卒前の学生が対象ということで、比較的短時間で視聴できるよう内容を調整した。6回の講義を視聴することで、歯科医療従事者が行う摂食嚥下リハビリテーションの概念を効果的に理解することができると考えられる。</p> <p>5. 地域医療・多職種連携に関わる視覚教材の作成： 当診療科で行っている診療風景を撮影し、検討症例として学生へ提示する視覚教材の作成を進めている。個人情報からeラーニングへのアップへの同意を得ることは難しいが、学内で教材として使用するという点で同意が得られた症例については今後も編集をすすめる予定である。</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <p>1. 阿部仁子, 日本大学歯学部卒前教育に対する取り組みについて(第2報), 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成)選定事業, 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-平成28年度連携シンポジウム, 北海道, 2017.</p> <p>知財</p> <p>1. 株式会社ニッシン: 有病高齢者顎歯模型 2. 一般市民・医療・福祉・介護従事者向けDVD「寝たきりになった時の口腔ケア」(同DVDの内容をYouTubeに投稿, 動画公開中. <a href="https://www.youtube.com/playlist?list=PLpPeRPhuqy7pVazGVqIp_0ys5P-BKBLjM">https://www.youtube.com/playlist?list=PLpPeRPhuqy7pVazGVqIp_0ys5P-BKBLjM</a>)</p> <p>受賞等</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品 実習で使用するために改良型の顎歯模型とペンライトを購入した。</p> <p>旅費</p> <p>1. 平成29年度歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会(2017/11/10)と課題解決型高度医療人材養成プログラム連携シンポジウム(2017/11/10-11)への参加のため旅費を計上した。 2. 岡山大学 特色ある医療支援歯学教育プログラム周術期口腔管理演習(2017/8/21~25)への参加のため, 学生2名の旅費を計上した。</p> <p>その他</p>

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻(号)・最初と最後の頁・発表年(西暦)の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付けてください。In pressとなったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。





## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」事業

連携大学名	昭和大学	連携大学事業推進委員	弘中 祥司	事務担当者	松原 友和
-------	------	------------	-------	-------	-------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示の可否
事業組織	弘中 祥司 石川 健太郎 片岡 竜太	教授 講師 教授	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 歯学教育改革コンソーシアム開発・編成担当	<input checked="" type="checkbox"/> ・否
教育プログラム・コース名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム チーム医療を目指した歯科医療人養成コース</li> <li>・特色ある医療支援歯学教育プログラム 健康長寿社会を実現する病院から在宅へ切れ目のない医療を实践できる歯科医療人養成コース</li> </ul>			
事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース</li> </ul> <p>昭和大学では高度選択科目、他大学では自由選択科目とし、第3学年に対して科目名：在宅を支える基本技能 90分6コマ、第4学年に対して科目名：4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90分12コマを実施する。</p> <p>○在宅を支える基本技能では、以下に示す5項目について医学部、薬学部、保健医療学部の教員が指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔ケア関連演習</li> <li>2. フィジカルアセスメント関連演習</li> <li>3. 移動・体位変換等演習</li> <li>4. 食事・服薬支援に関する演習</li> <li>5. 在宅での生活支援演習</li> </ol> <p>また、在宅療養中の高齢者を想定した模擬患者に対し、医療面接演習を実施する。</p> <p>○4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBLでは、歯学部に加え、医学部、薬学部、保健医療学部の4学部混成学生チームにより入院模擬患者のシナリオに対して、医療面接、各種検査結果を基に現状の問題点の抽出、入院中の治療方針から退院後の生活指導までの一貫した治療・指導計画を立案する。</p> <p>本学実習規定に基づき、4/5出席でかつ、修了時に課題試験を行い70%以上の正答を得た者を修了とする。臨床実習修了後に高度選択実習として病院歯科外来を利用したクリニカルクラークシップ方式をとり履修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を实践できる歯科医療人養成コース</li> </ul> <p>臨床研修歯科医師を対象とし、広範な一般医学知識をもち、病院の中で多職種と連携しながら、チーム医療を实践し、入院患者の口腔機能管理を行えるようになり、かつ、退院後の患者の生活を、医療、介護などの面から、包括的に考え、退院後の歯科診療、特に在宅・訪問歯科診療の重要性を理解し、地域連携パスに繋ぐことで地域医療に貢献できる歯科医師を輩出する。</p> <p>臨床特論講義は2単位で1単位は全身管理、救急医学、有病者歯科医療学、1単位は栄養、老年歯学、摂食嚥下リハビリテーションとする。</p> <p>臨床研修は昭和大学口腔ケアセンター研修（1週間：連携校は2週間）を以下の施設で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和大学病院（815床）：総合急性期病院</li> <li>昭和大学藤が丘病院（584床）：総合急性期病院</li> <li>昭和大学横浜市北部病院（689床）：総合急性期病院（緩和病棟含む）</li> <li>昭和大学烏山病院（340床）：精神疾患急性期回復期病院</li> <li>昭和大学江東豊洲病院（300床）：総合急性期病院</li> </ul>			

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム医療を目指した歯科医療人養成コース        本学第3学年の学生に対して、保健医療学部看護学科の学生と合同にて：在宅を支える基本        技能 90分6コマを実施し、108名の歯学部学生が受講した。終了時確認試験においても、高い正        答率を示しており、他職種が在宅医療にて実施する内容について理解するとともに、在宅医療        でのTransdisciplinary Teamにおける歯科医師の役割を理解できたものと思われた。また、在        宅療養中の高齢患者を模したSPとのコミュニケーション演習から、高齢者や家族に寄り添うコ        ミュニケーション能力を培うことができたと考えられた。        本学第4学年の学生に対して、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）学部連携PBL 90        分12コマを実施し、108名の学生が受講した。多くの学生が終了時のアンケートでチーム医療の        重要性を認識していた。また、4学部連携チーム医療Ⅱ（学部連携チーム）では、模擬患者の        シナリオを通してチーム医療の中での歯科医師の役割が認識されて、他学部の生徒との信頼関        係の構築に重要な実習であった。次年度には、実際に病棟実習を行うため、歯科医師に必要な        医科の知識の重要性が再認識されると思われた。</li> <li>・健康長寿社会を実現する病棟から在宅へ切れ目のない医療を実践できる歯科医療人養成コー        ス        本学の臨床研修歯科医全体83名の中から昭和大学口腔ケアセンターをラウンドした者は88%        の73名である（3月3日最終、1月31日現在、63名が修了）。研修終了後に実施したアンケート        調査から、「入院患者の口腔のケアの重要性を説明できる」という設問に対し、コースを受講        した研修医全員が「少しできる」または「十分にできる」と回答した。また、「周術期口腔機        能管理の対象となる患者について概説できる」、「周術期口腔機能管理の流れを説明できる」        という設問に対しても、85%以上が「少しできる」または「十分にできる」と回答した。以上        より、病棟における口腔ケアセンター研修は臨床研修歯科医師にとって、口腔ケアの知識と技        術向上に有効であると考えられた。</li> </ul>
<p>本プロジェクトに関連した業績、知財、受賞等</p>	<p>論文・研究発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石川健太郎ほか：臨床研修歯科医師に対する大学附属病院病棟での口腔ケアに関する自験内        容の検討、第66回日本口腔衛生学会、平成29年5月31日～6月2日、山形</li> <li>・石川健太郎ほか：研修歯科医に対する口腔ケアセンター研修の自験割合と研修到達度に関す        る調査、日本歯科医学教育学会雑誌、33（3）、152-157、2017</li> </ul> <p>知財 なし</p> <p>受賞等 なし</p>
<p>事業費の使途</p>	<p>消耗品</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスプレイマスク</li> <li>・ディスプレイグローブ ほか</li> </ul> <p>旅費</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第66回日本口腔衛生学会総会（山形）参加3名</li> <li>・平成29年度連携シンポジウム（北海道大学）参加2名</li> <li>・長崎大学離島プログラム参加1名</li> <li>・鹿児島大学離島プログラム参加1名</li> </ul> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医学教育学会論文掲載料</li> <li>・ポスター印刷費</li> </ul>

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。  
 ※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻（号）・最初と最後の頁・発表年（西暦）の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付けてください。In press となったもの以上を記入してください。  
 ※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。

## 平成29年度 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 連携大学報告書

「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-」事業

連携大学名	兵庫医科大学	連携大学事業推進委員	岸本 裕充	事務担当者	井上 あかね
-------	--------	------------	-------	-------	--------

	責任者名簿	役職	役割	本報告書のホームページでの開示可否
事業組織	岸本 裕充 野口 一馬 中村 祐己	主任教授 准教授 助教	歯学教育改革コンソーシアム事業推進委員会委員 歯学教育改革コンソーシアム実習コーディネーター 教育カリキュラム開発・編集担当 実習・e-learning作成担当	可
教育プログラム・コース名	「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる医療人養成コース			
事業計画	<p>本プログラムでは、兵庫医科大学病院歯科口腔外科のオリジナルである“CREATE”を意識した「オーラルマネジメント」（以下OM）を教授する。当科でのOMは、広義の口腔ケアとされる清掃（Cleaning）とリハビリ（Rehabilitation）の2つに加え、ブラッシング指導のような教育（Education），そして的確な口腔の評価（Assessment），さらに抜歯や義歯の調整など歯科治療（Treatment）の5つの要素が揃うことが重要であるという概念に基づく。以上の5要素を適切に達成できれば、おいしく食べる（Eat），もしくは、楽しむ（Enjoy）ことが可能となり、CleaningからEat・Enjoyまでの頭文字6つを順に並べると”CREATE”で、「食べられる口をCREATE（つくる）」が目標である。</p> <p>コース修了者は、「平時」から“CREATE”（口腔清掃とリハビリの2つに加え、教育そして的確な口腔の評価，歯科治療）の概念に基づくOMを実践し、患者にとって「有事」といえるがんの治療などの周術期や高齢者が弱者となる災害時などにおいても多職種との連携によるチーム医療を的確かつ円滑に実践できるようになる。また、歯科医師会における保健衛生部や行政において、災害医療学をベースとした地域医療の発展をリードできる人材となり得ることを期待する。さらには、多職種との連携を通じて、臨床のみならず、研究においても歯科領域に留まらない学際的な広い視野を持った歯科医師としての基礎が養うことが目的である。</p> <p>① 「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる医療人養成コースの開催(平成29年10月2日，3日開催)</p> <p>② 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-連携シンポジウム in 北海道大学 への参加</p> <p>③ シンポジウム 食べられる口をCREATE の開催(平成30年2月25日開催)</p> <p>④ OMを実践するために必要な技術を向上させる目的で歯科治療のトレーニングに関わる消耗品を購入予定</p>			
成果	<p>① 平成29年10月2日，3日開催 兵庫医科大学 「平時」から「有事」までオーラルマネジメント“CREATE”を実践できる医療人養成コース の一環として、他科と連携して以下の講義を実施。</p> <p>OMの概念(岸本裕充主任教授)，災害などの緊急時に役立つ応急処置(野口一馬准教授)，胸部単純X線写真(放射線科 石蔵礼一准教授)，CTの読影(野口一馬准教授)，MRIの読影(放射線科 石蔵礼一准教授)，抗菌薬の使い方・考え方(川邊睦記助教)，ARONJに関する最新の知見(岸本裕充主任教授)，縫合の講義・実習(形成外科 曾束洋平講師)，気管切開について(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 寺田友紀講師)，歯科からみた嚥下障害(中村祐己助教)，嚥下の基本と評価法(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宇和伸浩講師)</p> <p>参加者 9名(兵庫医科大学)</p>			

	<p>② 平成29年11月10日, 11日 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築-連携シンポジウム in 北海道 参加者 4名(教員1名, 病院助手1名, レジデント2名) レジデントによる発表を実施.</p> <p>③ 平成30年2月25日 シンポジウム 食べられる口をCREATE CREATEとは(岸本裕充主任教授), 外観の心理学〜リハビリメイクによる頭頸部術後へのアプローチ〜(REIKO KAZKI主任講師 西奈まるか先生), 食のリハビリテーションについて(大阪歯科大学 糸田昌隆教授), 希望のごはん〜「おいしい」が、ずっと続く未来へ〜(料理研究家 保森千枝先生)</p> <p>④ 形成練習に使用する人工歯などOMを実践するためのトレーニングに関わる消耗品を購入し, スキルアップを図ることができると考えられる.</p>
<p>本プロジェクトに関連した業績, 知財, 受賞等</p>	<p><b>発表</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年6月14日 第28回老年歯科医学会学術大会 愛知 兵庫県丹波圏域在住高齢者におけるフレイルと口腔衛生環境 長谷川香奈, 長谷川陽子, 堀井宣秀, 櫻本亜弓, 新村健, 濱田隆, 岸本裕充</li> <li>平成29年6月14日 第28回老年歯科医学会学術大会 愛知 兵庫県丹波圏域在住高齢者におけるサルコペニアと口腔機能の関連性 堀井宣秀, 長谷川陽子, 長谷川香菜, 櫻本亜弓, 新村健, 澤田隆, 岸本裕充</li> <li>平成29年11月10日 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築- 連携シンポジウム in 北海道 北海道 「兵庫医科大学歯科口腔外科学講座での新たな卒後教育〜医科・歯科合同フレイル調査を通じて“食べられる口をCREATE”を実践する力を養う〜」 服部洋一, 堀井宣秀, 杉田英之, 中村祐己, 野口一馬, 岸本裕充</li> </ul> <p><b>雑誌</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岸本裕充. 医科と歯科の連携 MRONJ対応の最近の動向 薬剤関連顎骨壊死への対応の最近の動向. 日本骨粗鬆症学会雑誌 3巻3号: 331-334: 2017</li> <li>中村祐己, 岸本裕充. 【高齢者の口腔ケア】 口腔ケアをどのように行うか チーム医療による周術期の口腔機能管理の実際. Modern Physician: 37巻9号: 995-998: 2017</li> <li>吉川恭平, 岸本裕充. 【口腔顎顔面に関連する疾患とその治療の現状】 周術期患者のオーラルマネジメント. Clinical Calcium: 27巻10号: 1403-1407: 2017</li> <li>岸本裕充, 高岡一樹. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の最新情報. 日本口腔インプラント学会誌: 30巻3号: 191-199: 2017</li> <li>岸本裕充, 高岡一樹. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死のポジションペーパー2016の解説. 日本歯科先端技術研究所学術会誌: 23巻3号: 161-170</li> <li>岸本裕充. ビスホスホネート製剤と歯科治療について 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の予防を目指して. 大阪府歯科医師会雑誌: 753号: 5</li> </ul> <p><b>書籍</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川邊睦記, 岸本裕充. 悪性腫瘍: 周術期のオーラルマネジメント. 5分で読める! 知りたい全身疾患29 (中川洋一 編): デンタルダイヤモンド社: 112-115 東京 2017</li> <li>高岡一樹, 岸本裕充. MRONJへのマネジメント戦略. 口腔外科ハンドマニュアル17: クインテッセンス出版: 41-49 東京 2017</li> <li>高岡一樹, 岸本裕充. 第16章 ビスホスホネート関連顎骨壊死. がん口腔支持療法 多職種連携によるがん患者の口腔内管理 (Andrew N. Daviesほか編著 曾我賢彦監訳): 永末書店: 151-162 京都 2017</li> <li>岸本裕充. 最新! 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の予防と治療. 歯界展望特別号-歯科医療 未来と夢-: 54-56</li> <li>岸本裕充. 口腔カンジダ症. 治療を支える がん患者の口腔ケア. 一般社団法人 日本口腔ケア学会学術委員会編集: 医学書院: 81-87 東京 2017</li> <li>岸本裕充, 浦出雅裕. 有熱患者の口腔ケア. 改訂版 口腔ケア基礎知識. 一般社団法人 日本口腔ケア学会編集: 永末書店: 197-200 京都 2017</li> <li>岸本裕充. 誤嚥性肺炎. 気管支喘息. 代謝性疾患 薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ). 新訂版 知り</li> </ul>

	<p>たいことがすぐわかる 高齢者歯科医療 -歯科医療につながる医学知識-：永末書店：50-53, 54-57, 76-79 京都 2017</p>
事業費の使途	<p><b>消耗品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツマシン画像編集用ソフト Adobe Premiere Elements 2018</li> <li>・NISSIN 模型歯A20-500</li> </ul> <p><b>旅費</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道大学 健康長寿社会を担う歯科医学教育改革-死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築- 連携シンポジウム in 北海道 発表・参加 4名</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝金・交通費 平成30年2月25日開催のシンポジウムの学外からの講師への謝金・交通費に使用する予定である.</li> <li>・印刷代 シンポジウム開催にともない、開催通知のチラシ、ポスター、垂れ幕の作成に使用</li> </ul>

※ 成果については、対象者の人数も記入して下さい。

※ 研究業績については、論文名・著書名・著者名・学会誌名・巻(号)・最初と最後の頁・発表年(西暦)の各項目を記入してください。共同、共著の場合は全員を掲載順に記入し、研究組織メンバーに下線を付してください。In press となったもの以上を記入してください。

※ 研究費の使途については内容を簡潔に記入してください。

